

学校規模適正化・適正配置に関する地域説明会(会議録)

1 日 時 令和7年7月9日(水)、18:30~19:55

2 開催場所 中妻地区生活応援センター

3 参加者 19名

4 事務局

【教育委員会事務局】

高橋勝教育長、川崎浩二教育部長、笹村聡一総務課長

佐々木薫学校規模適正化推進室課長、鈴木隆光学校教育課主幹

前川恵美総務課長補佐、谷藤太郎学校規模適正化推進室長補佐

【市長部局】

中村達也総務企画部長、佐々木豊市民生活部長、村山明子保健福祉部次長、

正木浩二水産農林課長、川崎俊之都市計画課長、土橋照好防災危機管理課長

5 経過

(1)開会

(2)教育長あいさつ

(3)職員紹介

(4)説明

(教育委員会事務局から説明)

(5)意見交換(質疑応答)

【参加者】

計画案の1ページの5行目のところ。第六次釜石市総合計画について、前期はどのくらい進捗していますか。私の記憶では、第六次釜石市総合計画の中でうたっていないような気がしました。

2点目、「唐丹小学校については、基本方針の『当面は中学校区内に小学校を1校は存続することを基本とする』とあるがどうしてか。

それから4ページ、「複式学級を解消した上で」とあるが前倒しできないのか。というのは、統合が令和9年度だったり13年度だったり、段階的にやっているのはわかりますが、や

るなら一気にいったほうがいいのではないかと。子どもたちはそれなりに対応するのではないですか。段階的に統合をやるほうが大変だと思います。

それから、小中一貫は、釜石市では難しいのではないかと。釜石みたいに学校が点在しているところは個人的には難しいのではないかなという気がします。教育長がどういうふうな考えであったのか。率直なところを伺いたい。私は時期尚早なような気がします。

【教育委員会事務局】

今、第六次総合計画の見直し作業をしております、今、数字で進捗状況がどのあたりまでというものがありませんので、まとめ次第、応援センターなどを通じてお伝えしたいと思いますので、少しお時間をいただきたいと思っております。

それから、唐丹地区は現在も複式で、この計画(案)の中では小学校は残していくとしていますが、5つの中学校区で、学校がある程度地域の核になるということで、各中学校区で中学校も小学校も統合してしまうと、その地域から学校自体がなくなるので、その地域の地域性の維持も難しくなる。唐丹地区の方々とお話する中で、中学校は統合しますが、小学校は地域の合意を得て残していく、という判断に至った経過があります。

それから、複式学級は統合のタイミングをもっと早めて、尚且つ、規模を大きくということもご提案いただきました。これまで、小学校・中学校の学校統合を進めてまいりました。地域や学校区を大きく再編してしまいますと通学の問題があり、また地域の伝統芸能や伝統活動が小学校を舞台で活動してきている経過もありまして、一気にそれをまとめてしまいますと、地域との分断が大きすぎるといってもありますので、釜石は学校の校舎の規模もありますけれども、近隣の小学校同士で統合を進めてきました。今回もその方向性で段階を踏んで適正化を進めるという判断に至っております。

最後に小中一貫校ですが、想定しているのは、釜石東中学校、鶴住居小学校になりますが、地形上、国道45号を上って北の鶴住居川流域ということで、鳥谷坂トンネルを越えて北側の地区はある程度一体的な地域性がありますので、鶴住居小学校と釜石東中学校で一貫校という考え方です。逆に言いますと、他の国道283号沿いの学校で一貫校というのは、本計画では想定しておりません。

【参加者】

小佐野は今回の地域説明会に入っていないですね。該当しない小学校、中学校の地域にも入っていないと。該当する学校区だけではなくて、該当外のところに行って説明することも必要ではないかと思っております。

【教育委員会事務局】

小佐野だけは確かに設定しておりませんでした。日程調整します。

【参加者】

おそらく人はそれほど集まらないと思うけど、学校の連絡協議会に事務局が来て説明するとか、学校関係者に言うだけではなくて、各学校に連絡協議会の委員がいるので集めてやるとか、もう少し積極的にPRしたほうがいいと思います。

【高橋教育長】

今のご意見に、ぜひ賛同したいと思います。

それから、小中一貫教育の導入につきましては、釜石東中学校、鵜住居小学校もそうですけれども、小規模校化が進むということで、メリットを最大限生かして、デメリットをできるだけ減らしたいということ。それから、釜石ではこれまでも小中連携をやってはいましたが、果たしてそれが十分かという決してそうではない部分もありますので、釜石東中学校と鵜住居小学校で小中一貫教育を行うことで、新しい風を吹かせて、釜石市の教育を変える1つの起爆剤みたいになれば。そういうところも考えているところです。

【参加者】

先ほど、ある議員からこうしたほうがいいのかという話が出たということで、疑問に思ったのが、ここにかけた計画案は議会にかかったんですか。議会にかかってないんですよね。

【教育委員会事務局】

6月定例会で釜石の教育に関するご提言、ご質問、ご意見をいただきました。

本計画(案)につきましては、7月中をメインにした地域説明会と、8月上旬に市議会議員全員協議会で議員の皆様にご説明して、8月中にパブリックコメントを実施して、それからの成案と考えておりましたので、計画は計画で、議員のご提案はご提案ということで承っております。

【参加者】

成案としていつ頃できるんですか。

【教育委員会事務局】

8月中にパブリックコメントを実施した後に、今月中の各地区の地域説明会で出てきたご意見、それからパブリックコメントのご意見を集約し、修正した形で、早ければ9月末、あるいは10月というスケジュール感でございました。

【参加者】

とりあえず、このスケジュールでやりたいということですね。

【教育委員会事務局】

そうです。

【高橋教育長】

中妻地区につきましては、釜石小学校と双葉小学校の統合というところもお示しましたので、それについてのご意見や、釜石全体の適正化の具体的な計画案についてのご意見、ご質問でもいいですので、よろしくお願いいたします。

【参加者】

3つ質問があります。

1つ目が、目的として複式の解消というところなんですけれども、2学級以上あると、人間関係だったり、働く人からしても1人で学年の作業を全てやるよりは、分担してできるのでいい面もあるので、単級にこだわる背景や、PTAの方とかに聞いた上での計画ということなので、どんなお話があってそうなったのか知りたいです。

2つ目は、双葉小学校と釜石小学校の移転後の学校の場所が決まっていない背景を教えてください。

3つ目は、通学条件のところでも、もしも釜石小学校の校舎になった場合、資料だと2.6 km以上だとバスになるということですが、実際にどのあたりから双葉小学区の子どもたちはバスになるのか。双葉小学校に校舎が移る場合はもちろん皆歩きだと思いますが、釜石小学校になった場合、双葉小学区の子どもたちはどこを境に徒歩とスクールバスに分かれるのか教えていただきたいです。

【教育委員会事務局】

まず、スクールバスのところからお話しします。仮に、釜石小学校と双葉小学校を統合して、釜石小学校の校舎を使用した場合、2.6 kmが大体、上中島のマルイチのある辺りにあります。実際には家の場所でルートがいろいろとあるので、一概にそこは言えないかもしれませんが、大体の目安としてはそこが釜石小学校からの2.6 kmラインとなっております。

【教育委員会事務局】

複式の解消ということで、統合後も各学年1学級ずつということですが、例えば、甲子小学校、平田小学校、鶴住居小学校のそれぞれ令和20年度ぐらいまでの推計を見ますと、それぞれ6学級、1学年1学級ということで、現状、釜石市内の小学校を近隣の小学校と統合してもできるのが1学級ということです。

もし、釜石市内の小学校で1学年2学級となりますと、ほとんど全部に近い小学校を統合しないと生み出せないという部分もあります。今、通学のスクールバスの話もありましたが、

かなり遠距離、それこそ 2.6 km以上の通学で、バスに乗っている時間もかなり長時間になってきますので、近隣の小学校同士の統合で生み出せるのは1学年1学級ですが、それで複式の解消をこの計画(案)の通り、まずはやっていきたい、やらせていただきたいという考えです。

双葉小学校と釜石小学校の校舎の問題については、それぞれ統合後に生み出せる学級数は1学級ずつですので、双葉小学校、釜石小学校それぞれどちらでも対応が可能な状況です。ただ、具体的なイメージについて、双葉小学校、釜石小学校に伝えるのはこれが初めてのタイミングということもありまして、統合後の校名や校歌、服装などもこれから話し合いを進めていかなければならないと考えております。

【参加者】

説明会はこれで終わりということではないですよ。今日お話ししていただきましたが、計画ができた後でもう1回説明会を開く案はありますか。

【教育委員会事務局】

地域説明会自体は7月中の9か所をメインに考えておりましたが、その中で、もう一度説明がほしいというご意見がありましたら、検討したいと考えておりました。今の段階ですと市のホームページ上に計画案を掲載しておりますが、それに対する意見募集をさせていただきます。地区説明会やパブリックコメントの意見を集約した案としての計画をもう一度説明してほしいということであればそれも考えてまいります。

【教育委員会事務局】

参考までにですが、昨日、唐丹中学校にて同様に地域説明会を開催しました。中学校の計画では唐丹中学校と釜石中学校は令和11年度、その後に大平中学校、甲子中学校を最後にまとめるという形でお示しましたが、唐丹の方から全校、令和14年度にまとめて統合してはどうかという意見もございました。後期の部分、中学校について何かご意見がありましたらお願いいたします。

【参加者】

まずは小学校じゃないですか。中学校もあるけれども、まず、早くやらなければならないのは、小学校かと思います。中学校の問題はその後でもいいのではないのでしょうか。個人の考えです。

【教育委員会事務局】

計画も、前期4年が終わった時点、令和10年度でもう1回見直したいと考えております。そのご意見も取り入れながら、修正していきたいと思っております。

【参加者】

釜石小の校舎を利用する場合、新町はスクールバス区域になると思いますが、間違いなく小佐野小に行ったほうが近いです。多分500mくらいで行ってしまいますが、その場合は、越境は認められるんですか。

【教育委員会事務局】

一旦は学校ごとに学区を設定したいと考えておりました。確かに隣の学校のほうが距離的にいえば近いというご家庭もあると思います。ただ、学区内であれば、徒歩が無理な距離であればスクールバスを担保するので、学区内で通学をお願いしたいと考えています。ただ、親御さんのお仕事の都合ですとか、いろいろな要素でどうしても統合後の学校に通うのは難しいということであれば、隣の学校に学区外通学ということでご相談に乗らせていただきたいと考えておりました。

【参加者】

適正化推進計画案の2ページの「Ⅱ 学校の適正規模・適正配置の具体的計画」の「(2) 通学区域の変更 ア 統合後の学校よりも、通学区域が隣接する学校に通学の方が望ましい地域がある場合」というのは、徒歩通学という意味での望ましさは入らないのでしょうか。それとも今回に関しては統合だけなので通学区域は変わらないということなのでしょうか。

【教育委員会事務局】

実際に統合準備委員会等でこれからいろいろ検討を重ねていく中で、保護者の皆さんの意見等も出ると思います。統合後の学校よりも通学区域が近いほうがいいという場合ももちろん想定されるので、地域としてまとまってそちらの学校に、というのはありかなと思っています。こちらとしては学区として定めたいので、例えば、ここの家だけそっちというのではなく、地区毎に分けられるのであれば、それはありかなと思っています。その辺についても、皆さんと合意の上で進めていく必要があると思っています。

【参加者】

釜石小学校と双葉小学校の統合でどちらの校舎を使用するか未定というのは、統合までの期間が長いから決められないということなのか。いわゆる東部地区の釜石小学校、西部地区の双葉小学校、どちらかが廃校になるわけですから、地域にとってはとても大きなことです。新市庁舎を建てる場合も、東部地区の活性化とか、歴史ある地区とかということはある程度大きく見て、町の勢いや人口とかそういうことがあまり考慮されなかったのではないかと思います。中妻地区の説明会ですから、皆さん双葉小のほうに向いているというの

はあるわけですが、釜石小は客観的に考えても津波の浸水区域である大渡町。崖崩れがあって避難所として使えないときもあった。スクールバスで通学するにしても山道を上がって丘の上の学校に行くとか、そういった意味で言えば、津波浸水区域外である上中島以西地区の安全性も大事な検討要素になるのではないかと思います。

2つ目は、学校の統合ですから教育委員会からの説明でしたが、せっかく市長部局からも来ているので、学校統合、特に廃校になる学校は、設備だけではなく、人の流れ、メンタルなどいろいろな大きな影響があるわけなので、市長部局のほうからも、学校統合について、せっかくの機会ですでお話いただけたらと思います。

【教育委員会事務局】

双葉小学校と釜石小学校の統合について、浸水区域内を通る登下校ということで、地震・津波の安全性だけの視点でいきますと釜石市内の小学校は浸水区域外に集約しなければならないというふうな、復興・まちづくりのこれから地域、町をどう作っていくかという議論とかみ合わない部分が出てくるかと思っています。実際、岩手県が令和4年に公表した「最大クラスの津波浸水想定」では、釜石中学校が6mの浸水区域に入ってしまうということで、それに対して地域と学校が一体になって避難訓練、避難の在り方を議論してきました。

実際に釜石小学校、双葉小学校の統合を想定して、それぞれに統合準備委員会を立ち上げて、PTAや地域の方々をメンバーに含めて議論をしたいと考えております。本日いただいたご意見も貴重なご意見と捉えておりますので、そういったことも考慮しながら、統合の計画・準備を進めたいと考えております。

【市長部局】

双葉小学校と釜石小学校のどちらかに移って、どちらかが学校がなくなるような話で、市としてどういうふうな考えなのかということだったと思いますけれども、学校がどちらかにいったとしても、そこで生活してる方々は当然いるわけで、全員がどちらかの学校の地域に移るということではないということも、当然頭に入れながらまちづくりというものを考えていかなければならないと思っております。

今後、人口が減少し、まちが小さくなっていく場合には、いかに効率よくまちづくりをしていくかという話の中には、おそらくコンパクトシティという考え方も出てくるのではないかと考えております。その中で、今回の学校規模の適正化や適正配置というものも、全体の大きなまちづくりの中の1つの学校、教育施設ということを考えていく必要が当然出てくるものだと思っております。今、学校統廃合ということで、今皆さんに説明を差し上げているところですが、広く言えば釜石市全体のまちづくりをどうすべきかというのも、市議会、市民の皆さんに説明しながら、当然教育委員会とも、どういった釜石市になればいいかということをご皆さんで考えていきたいと思っております。釜石市全体の話でちょっと雑駁な説明ですが、そういった方向になるのだろうと考えております。

【教育委員会事務局】

その他、いかがでしょうか。

【出席者】

(「なし」の声あり)

【高橋教育長】

(あいさつ)

(6) 閉会